

令和5年度 3年生

# 久御山高校

## シラバス

【科目案内と学習内容】

京都府立久御山高等学校

# 令和5年度 3年生シラバス

## 目 次

国語科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-01
地歴・公民科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-07
数学科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-16
理 科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-21
保健体育科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-28
芸術科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-32
英語科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-35
家庭科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-42
商業科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-44
総合的な探究の時間	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-45

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-01	国語	現代文B	3	S・A・P	3	必修

何を学ぶか

・2年次に履修した「現代文B」を踏まえ、近代以降の評論、小説、随筆、詩歌について、より多くの作品を一層深く学習する。  
 ・読解を中心としながら、作品の鑑賞や表現力を高めることができるような取り組みも行う。

学習目標

・表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。  
 ・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。  
 ・作品理解や読書を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。  
 ・問題演習に積極的に取り組む。

学習方法

使用教科書【東京書籍322 精選現代文B】

・予習では、① 本文を音読する。  
 ② 漢字、語句の意味を辞書で調べておく。  
 ③ 100字程度で内容の要約をする。  
 ④ 筆者の見解や作品の内容について、自分の意見や感想をノートに記入しておく。

・授業では、黒板の板書だけでなく、説明されている事柄をノートにメモし、復習に役立てる。  
 ・指示された課題・宿題等はきちんと家庭学習で済ませておく。  
 ・テスト前には、大意以外にも、指示語、接続詞、抽象的な箇所の説明、理由や心情の説明などの予想問題を作ってみる。

評価方法

・定期考査は1、2学期の中間・期末と学年末考査の計5回実施する。また授業時には週ごとに小テストなどを実施する。  
 ・評価は定期考査を8割、小テストや提出物、授業への取り組みなどを平常点として2割の割合で行う。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
現代文B	小説	/			■	■			■	■	/	/			■	■	■	■			/	/		/	/	
	評論	/		■	■		■	■			/	/							■	■		■	■		/	/
	詩歌	/								/	/														/	/
	表現	/	■						■		/	/	■	■							■				/	/

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-02	国語	古典B	3	S・A文・P	3	必修

### 何を学ぶか

- ① 古文や漢文に用いられている語句の意味や用法、文の構造
- ② 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる方法
- ③ 主要な古文や漢文にみられる、人間や社会、自然などに対する各時代の思想や感情
- ④ 古典作品の表現上の特色や優れた表現
- ⑤ 日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係

### 学習目標

- ・2年生で身につけた読解力をより高めるとともに、古典的知識も深め、ものの見方や感じ方・考え方を広げる。
- ・基礎的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文に慣れ親しむことを通して、人生を豊かにする態度を養う。
- ・問題演習にも積極的に取り組む。

### 学習方法

使用教科書【第一学習社352 高等学校 改訂版 古典B】

- ・予習として、本文をノートに写し、単語の意味や漢字の読み方などの基本的事項を調べ、音読しておく。自分なりに現代語訳しておく、授業中の学習がより効果的に行える。
- ・授業中は訳を単に写したり修正したりするだけでなく、文法等の重要事項も確認し、語彙や文法事項の知識などをふまえて、そのような訳になる理由を考える。
- ・学習した知識を定着させるために、復習は必要である。国語便覧を活用し、作者の思想や作品の文学史的な位置づけ、作品の成立した時代背景等を調べたり、文法テキストを基に文法の理解を深めることも大切である。

### 評価方法

- ・定期考査は1、2学期の中間・期末と学年末考査の計5回実施する。また授業時には週ごとに小テストなどを実施する。
- ・評価は定期考査を8割、小テストや提出物、授業への取り組みなどを平常点として2割の割合で行う。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
古文	説話	■	■																																			
	物語				■	■	■																															
	俳諧																																					
	日記																																					
	評論																																					
	文法		■	■																																		
漢文	逸話				■	■																																
	史伝																																					
	漢詩																																					
	小説・文章																																					
	句法・重要語				■	■																																

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-03	国語	古典B	3	A理	2	必修

### 何を学ぶか

- ① 古文や漢文に用いられている語句の意味や用法、文の構造
- ② 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる方法
- ③ 主要な古文や漢文にみられる、人間や社会、自然などに対する各時代の思想や感情
- ④ 古典作品の表現上の特色や優れた表現
- ⑤ 日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係

### 学習目標

- ・2年生で身につけた読解力をより高めるとともに、古典的知識も深め、ものの見方や感じ方・考え方を広げる。
- ・基礎的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文に慣れ親しむことを通して、人生を豊かにする態度を養う。
- ・問題演習にも積極的に取り組む。

### 学習方法

#### 使用教科書【第一学習社352 高等学校 改訂版 古典B】

- ・予習として、本文をノートに写し、単語の意味や漢字の読み方などの基本的事項を調べ、音読しておく。自分なりに現代語訳しておく、授業中の学習がより効果的に行える。
- ・授業中は訳を単に写したり修正したりするだけではなく、文法等の重要事項も確認し、語彙や文法事項の知識などをふまえて、そのような訳になる理由を考える。
- ・学習した知識を定着させるために、復習は必要である。国語便覧を活用し、作者の思想や作品の文学史的位置づけ、作品の成立した時代背景等を調べたり、文法テキストを基に文法の理解を深めることも大切である。

### 評価方法

- ・定期考査は1、2学期の中間・期末と学年末考査の計5回実施する。また授業時には週ごとに小テストなどを実施する。
- ・評価は定期考査を8割、小テストや提出物、授業への取り組みなどを平常点として2割の割合で行う。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
古文	説話	■	■																																	
	物語				■	■	■																													
	俳諧																																			
	日記																																			
	評論																																			
漢文	文法	■	■																																	
	逸話				■	■																														
	史伝																																			
	漢詩																																			
	小説・文章																																			
	句法・重要語				■	■																														

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-04	国語	国語表現	3	S	2	選択

### 何を学ぶか

・自分が考えたことや感じたことを、他人にわかるように、文章にまとめたり、話をしたりする方法を学ぶ。

### 学習目標

- ・正しい文章の書き方を身につけ、様々な用途や内容に対応した文章や、1000字程度の小論文を書けるようになる。
- ・また、効果的なコミュニケーションの方法を身につける。

### 学習方法

#### 使用教科書【第一学習社308 高等学校 改訂版 国語表現】

- ・日頃から、正しく読みやすい文字を書くように心がけておく。漢字については、継続的に学習を積み重ねておかねばならない。
- ・文章の書き方や話し方については授業で学習していくが、内容を豊かに持つためには、日頃から社会に目を向け、新聞や本を読み、様々な物事について自分なりに考えておくことが必要である。
- ・授業では、積極的に書き、話すことが大切である。繰り返し練習することによってのみ表現力は上達する。

### 評価方法

・定期考査点(それに準ずる小テストを含む)と平常点(提出物、小テスト、授業参加等)を、5:5の割合に換算して評価する。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
国語表現	文の書き方	/	■	■	■	■	■				/	/	/								/	/	/	/	
	作文	/	■	■	■	■	■				/	/	■	■	■							■	■	/	/
	小論文	/						■	■	■	/	/	/	/										/	/
	レポート	/									/	/			■	■	■							/	/
	話し方	/								■	/	/			■	■								/	/
	敬語	/									/	/						■						/	/
	手紙文	/									/	/						■						/	/
	鑑賞	/									/	/			■				■					/	/
	創作	/			■						/	/								■				/	/

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-05	国語	国語特講	3	S	2	選択

### 何を学ぶか

- ・1、2年で学んできた国語力を「総合的な国語力」に高めるための演習を中心とした学習活動を行う。大きく、現代文と古典の二分野からなるが、どちらの分野についても、受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。
- ・また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野の学習活動も随時行う。

### 学習目標

- ・表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
  - ・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
  - ・文章読解を通して、自分と自分をとりにまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。
  - ・古典の読解力をより高めるとともに古典的知識も深め、ものの見方や感じ方、考え方を広げる。
- また、基本的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文の読解を通して、人生を豊かにする態度を養う。

### 学習方法

使用教科書【東京書籍322 精選現代文B】【第一学習社352 高等学校 改訂版 古典B】

■現代文・古文のいずれも授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。

- ① 現代文: 授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。
- ② 古典(古文): 授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や古典文法などを確実に身につける。

### 評価方法

- ・定期考査点(それに準ずる小テストを含む)と平常点(提出物、小テスト、授業参加等)を、5:5の割合に換算して評価する。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
現代文	演習	■	■			■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	表現	■			■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
古文	演習	■		■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	古典文法	■		■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-06	国語	国語特講	3	A文	3	選択

### 何を学ぶか

- ・1、2年で学んできた国語力を「総合的な国語力」に高めるための演習を中心とした学習活動を行う。大きく、現代文と古典の二分野からなるが、どちらの分野についても、受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。
- ・また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野の学習活動も随時行う。

### 学習目標

- ・表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
- ・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
- ・文章読解を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。
- ・古典の読解力をより高めるとともに古典的知識も深め、ものの見方や感じ方、考え方を広げる。  
また、基本的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文の読解を通して、人生を豊かにする態度を養う。

### 学習方法

使用教科書【東京書籍322 精選現代文B】【第一学習社352 高等学校 改訂版 古典B】

- 現代文・古文・漢文のいずれも授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。
- ① 現代文：授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。
- ② 古典(古文+漢文)：授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や古典文法・漢文句法などを確実に身につける。

### 評価方法

- ・定期考査点(それに準ずる小テストを含む)と平常点(提出物、小テスト、授業参加等)を、5:5の割合に換算して評価する。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
現代文	演習	■																																
	表現		■																															
古文	演習																																	
	古典文法																																	
漢文	演習																																	
	句法																																	









番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-10	地理歴史	地理A	3	P	2	必修

### 何を学ぶか

- ① 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化等の事象を通して現代世界の特色を主題的な方法を基に考察する。
- ② 現代世界を地域(市町村規模、国家規模、州・大陸規模)のスケールを踏まえながら地誌的に考察する。地誌的な内容を中心に学習して、結びつきを理解する。
- ③ 現代世界の諸課題の現状と背景を理解し、地球的問題群の環境問題・人口問題などを将来へ大課題としてとらえられるように学習する。
- ④ 世界を理解するために、世界の基礎的な知識を再確認する。

### 学習目標

- 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 学習方法

使用教科書【第一学習社310 高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ  
／二宮書院314 高等地図帳 改訂版】

- 教科書・副教材を使用して、写真などの教材を参考にして、講義型の授業を中心に行うが、作図などの作業を随時実施する。授業時には、教科書・副教材・地図帳を必ず用意することが必要となる。

### 評価方法

- 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目 /領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
地理A	地球儀や地図でみる現代社会	■	■	■																				
	生活を取りまく地理的環境	■	■	■	■	■																		
	アジアの生活・文化と環境						■	■	■															
	イスラーム圏の生活・文化と環境								■	■														
	中南アフリカの生活・文化と環境										■	■												
	ヨーロッパの生活・文化と環境											■	■	■										
	ロシアと周辺的生活・文化と環境												■											
	北アメリカの生活・文化と環境													■	■	■								
	中・南アメリカの生活・文化と環境														■									
	オセアニアの生活・文化と環境															■								
	地球的課題・人口問題																■	■						
	地球的課題・食糧問題																	■	■					
	地球的課題・環境問題																	■	■					
	地球的課題への国際協力																				■	■		











番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-15	公民	政治・経済	3	A文	4	必修

### 何を学ぶか

- 本校公民科では、1年生の「現代社会」と3年生の「政治・経済」を有機的に関連づけてとらえ、同じ学習事項の重複をなるべく避けようとしています。そのために、
- ・1年生の「現代社会」では、おもに法律・政治・社会問題領域を、
  - ・3年生の「政治・経済」ではおもに経済と国際社会関係の基礎的な事項の学習を行います。

### 学習目標

1. 民主主義や資本主義経済の基礎的な原理を理論的・体系的に理解する。
2. 現代の政治, 経済, 国際関係などについて客観的に理解する。
3. 1、2の理解を踏まえ、またテレビのニュースや新聞記事に触れる機会を持つことにより、現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力・態度を育てる。  
学習した内容から現代の政治・経済の課題等を考察できるようになることで、学習に対する意欲を向上させる。

### 学習方法

#### 使用教科書【数研出版317 改訂版 政治・経済】

##### 授業は

- (1) 原則として教科書に沿って進める。
- (2) 資料・ビデオ等の活用。
- (3) 点検をするので必ずノートをとる。
- (4) 小テストを行い、知識の定着を図る。
- (5) 1日に1回はテレビのニュースや新聞記事に目を通すこと。
- (6) 授業に必要なものは絶対に忘れない。教科書、ノートなど。

### 評価方法

- 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
政治・経済	経済活動の意義と経済体制	■	■	■																				
	現代経済のしくみ				■	■	■	■																
	日本経済と福祉の向上							■	■	■	■													
	国際経済の動向											■	■	■	■									
	国際経済の課題と国際協力													■	■	■	■							
	現代日本の諸課題																■	■	■	■				
	国際社会の諸課題																		■	■	■			
	問題演習	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-16	数学	数学Ⅲ	3	A理	6	選択

### 何を学ぶか

- ・高校における数学学習の締めくくりとして、またより高度な数学への入り口として、微分学・積分学の基礎を学びます。
- ・複素数平面では複素数に関する知識を深め、2次曲線では放物線・楕円・双曲線について、関数では分数関数・無理関数について、極限では数列の極限とともに関数の極限を学習し、次の微分・積分への基礎的概念を学びます。
- ・微分法・積分法では、数学Ⅱで学習した3次までの関数に加え、高校数学で学習したすべての関数について微分・積分の計算を学びます。また、変曲点などの学習でグラフの精密な形についても理解を深め、近似式・体積も学習します。
- ・数学Ⅲの内容が終了した後は、共通テスト及び私大の入試問題等の問題演習を行います。

### 学習目標

- ・近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その強力さを体験します。
- ・科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。
- ・解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。
- ・理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

### 学習方法

#### 使用教科書【数研出版324 改訂版 新編 数学Ⅲ】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努めます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
- ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めます。

### 評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合  
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
数学Ⅲ	複素数平面	■	■																					
	式と曲線・関数			■	■	■																		
	極限					■	■	■																
	微分法とその応用							■	■	■														
	積分法とその応用												■	■	■	■								
	入試問題演習																	■	■	■	■		■	■





番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-19	数学	数学演習	3	S	2	選択

### 何を学ぶか

- ・数学演習は、1年生で履修した数学ⅠAの演習を行う。
- ・実践方式で、問題演習に取り組み、その解説を行います。

### 学習目標

- ・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- ・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

### 学習方法

使用教科書【数研出版 329 改訂版 新編 数学Ⅰ / 329 改訂版 新編 数学A】

- ・予習・・・使用教材に目を通し、問題の解法について理解に努めてください。
- ・復習・・・習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。  
理解できないところは、担当の先生に質問してください。

### 評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合  
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
数学ⅠA	数学ⅠA approach	/										/	/	/											/	/	/				/	/	/	
	数学ⅠA basic	/	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	/	/	/											/	/	/				/	/	/
	数学ⅠA challenge	/											/	/	/	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	/	/	/	





番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-22	理科	生物	3	A理	4	選択

### 何を学ぶか

- 生物基礎の内容をふまえて、以下の内容を学習する。
- ・細胞を構成する物質や性質、細胞内での化学反応などミクロな視点から生命現象を把握する。
  - ・生命現象を支える核酸について学び、PCR法や遺伝子組換え技術など、最新のバイオテクノロジーについて理解を深める。
  - ・生殖や発生について学び、生物の持つ多様性について理解する。
  - ・動物や植物の環境応答について学び、生物が持つ適応力について理解を深める。
  - ・生物と環境との関わりについて学び、環境保全の重要性について考える。
  - ・生物の進化と系統について学び、既習事項をふまえて生物の持つ特徴を整理する。

### 学習目標

- 分類や比較などの手法を用いて、生命現象を理解する力を養う。また、化学との関わりを意識して生命現象を記述するために化学の知識を応用できるようになる。
- 実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから正確な情報を読み取る力を養う。
- 身近な地域社会と生物との関わりについて興味を持ち、環境と生物の共存に向けて有効な取り組みを考えられるようになる。

### 学習方法

#### 使用教科書【数研出版310 改訂版 生物】

- 授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
- 授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- 家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
- 実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を身につける。
- また、実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。

### 評価方法

- 定期考査は年間5回実施する。授業内容の確認として小テストを実施する場合もある。
- 年間3回程度の実験を行い、レポートを作成する。
- 考査点と平常点(1～2割)で評価する。
- \* 平常点は、提出物の状況・小テスト・授業態度等により知識・理解・興味・意欲の観点から評価する。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
生物	生命現象と物質	■	■	■	■																			
	遺伝子のはたらき							■	■	■	■													
	生殖と発生												■	■	■	■								
	生物の環境応答															■	■	■	■					
	生態と環境																			■	■	■		
	生物進化と系統																						■	■













番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-28	保健体育	体育	3	S・A	2	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館書店304 現代高等保健体育改訂版】

- ・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテスト、身体づくりを行う。
- ・その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。活動は前期・中期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。グループで協力し、各種目の技術向上を目指す。

評価方法

○種目ごとに、①運動技能(40%)、②関心・意欲・態度(40%)、③思考・判断(10%)、④知識・理解(10%)の割合で評価する。  
 ○評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解度である。欠席等をなくして1年・2年次以上に意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
体育	男	集団行動・スポーツテスト	■	■																						
		体づくり運動			■																					
		体育理論								■																
		剣道				●	●	●	●	●																
		サッカー				●	●	●	●	●																
		バスケットボール				●	●	●	●	●																
	女	バレーボール				●	●	●	●	●																
		バドミントン				●	●	●	●	●																
		テニス				●	●	●	●	●																
		卓球				●	●	●	●	●																
		ソフトボール				●	●	●	●	●																
		ダンス				●	●	●	●	●																
		陸上競技				●	●	●	●	●																

■は必修種目 ●は選択して実施する種目







番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-31	保健体育	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	3	P	4	必修

### 何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

### 学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

### 学習方法

使用教科書【大修館書店304 現代高等保健体育改訂版】

- ・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行う。
- ・各自のさらなる競技力向上を目指し、研究・実験学習を行い、卒業論文作成及び校内発表会を行う。
- ・各自のテーマをみつけて、研究する。

### 評価方法

- 種目ごとに、①運動技能(40%)、②関心・意欲・態度(40%)、③思考・判断・表現(10%)、④知識・理解(10%)の割合で評価する。
- 評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルール、技術理論等の理解度である。
- 欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。
- 研究、アンケート作成、実験方法思案、実験等を毎時間、評価する。スポーツへの関心・意欲・態度ならびに知識理解において、総合的に判断し評価する。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 体育概論	男子・女子	剣道(男女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		バスケットボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		バレーボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		陸上競技(男女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		硬式野球(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		サッカー(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		ソフトテニス(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

※各自の専攻種目を基本にテーマを設定し、研究発表を行う。

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-32	芸術	音楽Ⅲ	3	S	2	選択

何を学ぶか

・生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに社会生活の中で音楽が活かされている職種・場面にもどのようなものがあるのか具体的に知り、そのために必要な最低限の知識、技能を学ぶ。

学習目標

・生涯にわたって音楽を愛好する心情を育て、そのために必要な知識、技能を学ぶ。  
 ・職業の中で音楽が必要とされる業種を知り、どのように音楽が活かされ、どのような勉強をして職業としていくのかの流れを知り、体験をしながら最低限の知識を身につける。

学習方法

使用教科書【教育芸術社305 Joy of Music】

- ・音楽Ⅰ，Ⅱで学んできたことを基礎とし、歌唱、合奏、鑑賞に取り組む。
- ・保育分野における幼児教育の音楽、音楽療法、高齢者向けの音楽療法、リトミックなどの基礎を実践形式で学ぶ。

評価方法

○表現(歌唱・器楽)は、  
 「音楽や音楽文化についての理解を深め、主体的に学習に取り組もうとする(主体的に学習に取り組む態度)」  
 「知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている(思考・判断、表現)」  
 「創造的な音楽表現をするために必要な知識・技能を身に付けている(知識・技能)」  
 の観点で評価する。〈授業中の演奏、実技テスト、提出物、筆記テスト〉

○鑑賞は、  
 「音楽や音楽文化について理解を深め、主体的に学習に取り組もうとする(主体的に学習に取り組む態度)」  
 「芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わって聴いている(鑑賞の能力)」  
 の観点で評価する。〈授業中の様子、提出物、筆記テスト〉

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
音楽Ⅲ	歌唱	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ギター、リコーダー、グループ合奏	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鑑賞	■		■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	実技テスト	■						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-33	芸術	美術Ⅲ	3	S・P	2	選択

### 何を学ぶか

【企画力・発想力・表現力・提案力(プレゼンテーション能力)を総合的に習得および向上する】

- ・総合課題 高校での美術教育の集大成として総合的課題を制作する。
- ・鑑賞: 各分野の著名な作家や職人、諸先輩の作品や商品、提案物やサービスなどを教科書や資料画像で接し、自己の美的感覚や表現力を高める。

### 学習目標

- ・総合課題 調査・分析方法／アイデア展開方法／コンセプト立案方法／イメージ図制作／立体模型制作／最終提案(プレゼンテーション)を習得および実践する能力を養う。
- ・鑑賞 各作品や商品、サービスなどに込められた意図・効果を学び、自己の美的感覚や表現の幅を広め作品完成度の向上を図る。

### 学習方法

#### 使用教科書【光村図書303 美術3】

- ・総合課題: 『自分が住みたい家』(外観/エクステリア)を一般的な『開発プロセス』を踏んで提案する。
- ・『家』を構成する要素(モノ/こと)を抽出し、家に対するこだわり、『提案成立のための条件』を見出す。
- ・アイデアを自由な発想で展開をする。(ケント紙やスチレンボードで作成できる範囲内での提案とする)
- ・基本コンセプトをパネルにまとめて、みんなの前で提案(プレゼンテーション)する。
- ・コンセプトに基づいた『自分が意図する家』の外観(エクステリア)がわかるイメージ図を制作する。
- ・イメージ図を三次元的に把握した上で、その立体模型を制作する。(ケント紙/スチレンボードを使用)
- ・基本コンセプトパネル、イメージ図、立体模型を示してみんなの前で最終提案(プレゼンテーション)する。
- ・鑑賞: 各分野の著名な作家や職人、諸先輩の作品や商品、提案物やサービスなどを教科書や資料画像を通して接する。

### 評価方法

- ・総合課題: 『自分が住みたい家』(外観/エクステリア)
  - ・『家』を構成する要素(モノ/こと)を幅広くたくさん抽出することができたか。
  - ・自分が住みたいと思える『家』について、自由な発想でアイデア展開できたか。
  - ・自分が住みたいと思える『家』をコンセプトパネルにまとめて、みんなの前で提案(プレゼンテーション)できたか。
  - ・自分が住みたいと思える『家』はどんなものであるかがわかるイメージ図を制作できたか。
  - ・自分が住みたいと思える『家』はどんなものであるかがわかる立体模型を制作できたか。
  - ・自分が住みたいと思える『家』をイメージ図と立体模型を示して最終提案(プレゼンテーション)できたか。(また共感を得られたか)
- ・鑑賞: 各作品や商品、サービスなどに込められた意図・効果を学び、自己の美的感覚や表現の幅を広め完成度を高められたか。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
美術Ⅲ	総合課題	調査・分析	■	■	■	■					■	■									■	■				
		アイデア展開				■	■	■	■			■	■									■	■			
		コンセプト立案							■	■																■
		イメージ図制作									■	■	■	■	■	■										■
		立体模型制作															■	■	■	■	■					■
	プレゼンテーション									■															■	
鑑賞	鑑賞	■			■											■									■	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-34	芸術	書道Ⅲ	3	S	2	選択

何を学ぶか

・漢字(五体より選択)・大字仮名・漢字仮名交じりの書・表装(軸装・パネル装)を学びます。

学習目標

・「書道Ⅰ」・「書道Ⅱ」で学んだ内容を発展させ、さまざまな形態で制作する中で、書の美との関わりを深め、創造する喜びを体感します。

学習方法

使用教科書【教育図書302 書Ⅲ】

- ・仮名は大字仮名に取り組み、線質や潤渴の表現を学びます。
- ・漢字は数多くの古典より一点を選び臨書作品を制作し、大筆による一字創作にも取り組みます。
- ・漢字仮名交じりの書の制作ではこれまでに学習した内容をふまえてより高度な表現を試みます。
- ・作品はそれぞれ裏打ちし、軸装・パネルに仕立てて展示形態の多様性と視覚的効果を理解します。

評価方法

- ・主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組めているか(関心・意欲・態度)
- ・書のおさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか(書表現の構想と工夫)
- ・基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけているか(創造的な書表現の技能)
- ・書の伝統と文化を理解し、書のおさや美しさを創造的に味わっているか(鑑賞の能力)

以上の内容について、完成した作品の達成度とともに評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月						
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬							
書道Ⅲ	仮名	■			■	■	■	■																														
	硬筆	■																																				
	漢字	■																																				
	表装	■																																				
	漢字仮名交じり	■																																				

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-35	外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	3	S	4	必修

### 何を学ぶか

- ・短めの文章を読みながら、英文の内容を読み取るための基礎的なreading skillsを学ぶ。
- ・長い文章を読み、学んだreading skillsを活用して概要を理解するとともに、そこに使われている表現を覚え、使えるようにする。
- ・重要な英語構文を学習し、運用力を養う。

### 学習目標

- ・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
- ・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

### 学習方法

使用教科書【啓林館336 LANDMARK Fit English Communication Ⅲ】

- ① 新出単語・熟語等を含む語彙の意味・用法を理解する。
- ② 本文を読んで、T or F, Q and A等の活動に取り組みながら内容を把握する。
- ③ 意味を踏まえた適切な音読の反復練習を通じて、言語材料の定着と音声面の強化を図る。
- ④ 英文中の文法事項を使った自由英作文等を通してSpeaking, Writingの力を伸ばす。
- ⑤ 副教材で、基礎的な英語構文の定着をはかる。

### 評価方法

授業中の小テストや提出物・出席状況・授業態度を成績の2割程度とし、定期考査の成績と合わせて最終の評価とする。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
コミュニケーション 英語Ⅲ	Lesson 1,2	■	■	■																																
	Lesson 3,4				■	■	■	■	■																											
	Lesson 5,6																																			
	Lesson 7,8																																			
	Lesson 9,10																																			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-36	外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	3	A	4	必修

### 何を学ぶか

- ・「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」の単語や文法事項を踏まえながら、まとまりのある文章を読んで、英文を正確に速く読み解く方法を学び、繰り返しトレーニングを行う。
- ・また、様々なタイプの文章に接し、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめたりする力を養う。

### 学習目標

- ・英語を読んで、情報や書き手の意向などを素早く正確に理解する能力をさらに伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- ・卒業時に英検2級レベルの英語力取得を目指す。

### 学習方法

使用教科書【増進堂341 NEW FLAG English Communication Ⅲ】

- ① 新出単語および熟語の意味、構文を授業内で理解する。
- ② ①を使って、初見の英文を読んで、T or F, Q and A等の問題を解きながら大まかな内容を把握する。
- ③ 英文の音読、英文中の文法事項を使っての自由英作文等でSpeaking, Writingの力を伸ばす。
- ④ 副教材を活用して、語彙力や文法力を高める。

### 評価方法

授業中の小テストや提出物・出席状況・授業態度を成績の2割程度とし、定期考査の成績と合わせて最終の評価とする。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
コミュニケーション英語Ⅲ	Chapter 1,2	■	■	■																				
	Chapter 3,4,5				■	■	■	■	■															
	Chapter 6,7,8								■															
	Chapter 9,10,11														■	■	■	■	■					
	Chapter 12,13																			■	■		■	■



番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-38	外国語	英語表現Ⅱ	3	S	2	必修

何を学ぶか

・問題の演習をすることによって2年時の英文法を定着させ、実際の会話や英作文に役立つ知識を学び、英語で身近な話題や自分の考えを表現できる技術を身につける。

学習目標

・比較的短く易しい英文を使って、2年生で学習した文法項目のポイントを整理し、文法の基礎的な力を構築する。  
 ・また、問題演習をすることで情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。  
 ・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教科書【啓林館323 Vision Quest English Expression II Hope】  
 使用副教材【桐原書店 英語構文ノート86】

- ① 予習を行い、練習問題を解いておく。
- ② 各レッスンの文法項目を理解し、例文を反復練習する。
- ③ やった問題を復習し、さらに理解を深める。
- ④ 学習した語句や表現・構文等を活用し、英語でまとまった文章を書く。

評価方法

授業中の小テストや提出物・出席状況・授業態度を成績の3割程度とし、定期考査の成績と合わせて最終の評価とする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
英語表現Ⅱ	Lesson 7	■	■	■	■																													
	Lesson 8					■	■	■	■	■																								
	UNIT 5, 6, 9										■				■	■	■	■																
	UNIT 10, 11																																	
	UNIT 12																																	





番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-40	外国語	N & N (News & Novels)	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

・現代的な話題性のあるテーマを扱ったテキストを使用する。さまざまなジャンルについての一般教養を身につけるとともに、長文読解の基礎固めを行う。

学習目標

・1、2年次に習得した英語力を土台とし、英文の読解力を高める。

学習方法

使用教材 【啓隆社 英語総合問題集 Elixir 4 三訂版】

- 1 英文を読み、単語の意味や構文を調べ、内容を理解する。
- 2 内容の理解を深めるため、国や文化、記載されている問題などについて調べる。

評価方法

授業中の小テストや提出物・出席状況・授業態度を成績の2割程度とし、定期考査の成績と合わせて最終の評価とする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
N & N ニュース・アンド・ノベルズ	Lesson 1	/	■	■									/	/																					
	Lesson 2	/			■								/	/																					
	Lesson 3	/				■							/	/																					
	Lesson 4	/					■	■					/	/																					
	Lesson 5	/							■				/	/																					
	Lesson 6	/								■			/	/																					
	Lesson 7	/									■	■	/	/																					
	Lesson 8	/												■	■	/	/																		
	Lesson 9	/														■	■	/	/																
	Lesson 10	/																■	■	/	/														
	Lesson 11	/																		■	■	/	/												
	Lesson 12	/																			■	■	/	/											
	Lesson 13	/																				■	■	/	/										
	Lesson 14	/																						■	/	/									
	Lesson 15	/																																	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-41	外国語	英語演習	3	A文	3	選択

何を学ぶか

・大学共通テスト、四年制大学受験レベルの問題に取り組み、論理的思考を養うとともに、英語を正しく読む力を身につける。

学習目標

・1、2年次に習得した英語力を土台とし、英文の読解力を高める。  
 ・卒業時に英検2級レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教材 【エミル出版 CROSSBEAM 総合問題集 Standard 2】

- 1 英文を読み、単語の意味や構文を学び、内容を理解する。
- 2 大意把握に有効な速読スキルを身につけるために速読テストを行う。

評価方法

・授業中に行う速読テストを1割、提出物や授業参加意欲を1割として、定期考査の点数と合わせて最終的に評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
英語演習	Lesson 1～3	/	■	■	■	■	■						/	/	/										/	/	/				/	/	/			
	Lesson 4～6	/							■	■	■	■	■	/	/	/										/	/	/				/	/	/		
	Lesson 7～9	/													■	■	■	■	■								/	/	/				/	/	/	
	Lesson 10～12	/																			■	■	■	■	■			/	/	/				/	/	/
	Lesson 13～15	/																								■	■		/	/	/	■	■		/	/

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-42	家庭	子どもの発達と保育	3	S・P	2	選択

### 何を学ぶか

- ・2年生で学んだ「家庭基礎」の保育・教育分野の内容をより深く探求していきます。
- ・保育に関わる実験・実習を通して、ヒトとしての発達の神秘や命の大切さにも触れます。

### 学習目標

- ・子どもに関わる今日的话题を取り上げ、保育・教育の現状や課題、方向性を見つめます。
- ・子どもの成長・発達に欠かせない栄養(食事)、生活習慣、遊び、児童文化財について、実験・実習を通して体験的に学んで行きましょう。
- ・保育士や幼稚園教諭等の保育・教育に関わる仕事や将来の子育てに役立つ基礎知識を習得しましょう。

### 学習方法

#### 使用教科書【実教出版311 子どもの発達と保育 新訂版】

- ・授業の前に教科書を一読し、概要を掴んでおきましょう。
- ・毎時間、授業に集中し、プリントを記入すること。すぐに活用できるようファイルを整理しておきましょう。
- ・保育・教育する立場から、子どもの発達を促す教材の製作にも取り組み、保育実習に生かしましょう。
- ・日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から生活情報を入手し、疑問を持ったり、調べたり、自分の課題を見つけたり、周囲の人に提案したりしましょう。

### 評価方法

- ・小テスト、課題レポート、提出物(ファイル、実習作品等)、授業や実験・実習に対する取り組み等、意欲・関心(30%)、知識・理解(40%)、思考・判断・表現(10%)、技能(20%)の4つの観点で総合的に判断します。

### 授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
子どもの発達と保育	子どもの現状	▼	■	■																																
	発育と発達	▼			■	■	■	■	■	■	■	■	▼																							
	子どもの生活	▼											▼	■	■	■	■	■	■																	
	保育者の役割	▼																		■	■	■	■	■	■											
	家庭保育と集団保育	▼																		■	■	■	■	■	■											
	児童福祉	▼																																		



番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-44	商業	情報処理	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

- ・キャリア教育の一環として資格取得(ビジネス文書実務検定1級受験)をする。
- ・問題解決できる能力を伸ばす。また、情報倫理や道徳について学ぶ。
- ・社会人になったときの必要最低限のスキルを身につける。(ビジネス分野の内容・データベース活用も含む)

学習目標

- ・情報処理機器の活用について関心を持ち、自らすすんで課題に取り組み問題を解決する能力を身につける。
- ・資格取得のためにワード・エクセルに関する検定試験1級及び2級合格を目指す。
- ・コミュニケーション能力の育成。

学習方法

使用教科書【東京法令出版353 ビジネス情報 新訂版】

- ・情報発信のためのスキルを身に着ける。
- ・実習中心の授業のため欠席等でも課題は学校で行う。
- ・能力差については、本人の努力により克服できるのでその点を重視する。
- ・年間通じてタイピングの練習を自主的に行う。

評価方法

- ・課題・実技テスト(90%)を中心に知識・意欲・理解および出席・服装(10%)など総合的に判断する。詳細は、1・2学期の中間・期末にワープロ速度(30%)・文書(1級)(70%)の実技テストを実施する。3学期はエクセルの実技テストを実施する。
- ・実習科目なので、出席することが基本である。欠席時は必ず欠席届を提出すること。
- ・ビジネス実務検定試験受験(11月第3日曜)を必須とする。希望者には他の資格試験のサポートもある。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
情報処理	ビジネスと情報																		■	■					
	表計算ソフトの活用																			■	■				
	ワープロ実技	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	データベース活用	■	■																						
	プレゼン								■	■			■	■											
	アルゴリズム	■	■																						

番号	教科名／科目名	学年	コース	単位数	備考
3-45	総合的な探究の時間 (体育理論)	3	P	1	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、運動をより効果的、効率的に実践できるための方法を学ぶ。
- ③ 科学的根拠に基づいた研究および発表により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

各種の運動の合理的な実践等の研究を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

- ・各自のさらなる競技力向上を目指し、研究・実験学習を行い、卒業論文作成及び校内発表会を行う。各自のテーマをみつけて、研究する。
- ・代表者を決定し、体育系卒論発表会で学校代表として発表する。

評価方法

- ・研究、アンケート作成、実験方法思案、実験等を毎時間、評価する。
- 各自の研究に対する関心・意欲・態度(40%)、各自の研究に対する考察を思考・判断(30%)、実験方法や分析方法などについての知識・理解(30%)を評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月							
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬								
総合的な探究の時間 (体育理論)	剣道(男女)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	
	バスケットボール(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■
	ソフトテニス(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■
	バレーボール(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■
	陸上競技(男女)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■
	硬式野球(男子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■
	サッカー(男子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■

※各自の専攻種目を基本にテーマを設定し、研究発表を行う。

